

この指 とまれ！

～高四小はこんな教育を目指しています～

1. はじめに

学校は、児童のためにある場所です。学校では、児童が多くのことを学び、経験を積み重ねながら自分の人生を形づくり 将来 「社会人」として自立できるよう支援していかなければなりません。

令和 5 年度は、学習指導要領の完全実施から 4 年目を迎え、「新しい時代に必要となる資質・能力の育成」に向けて、各教科で求められる「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」「学びに向かう力・人間性等の涵養」を伸長・定着させていく必要があります。また、杉並区教育ビジョン 2022 では、「みんなの幸せを創る杉並の教育」では「教育の当事者として心がける視点」としてとして、次の 5 点を挙げています。

- 1 子供の思いを尊重する
- 2 ちがいを受け入れる
- 3 対話を大切にする
- 4 学びの成果を贈り合う
- 5 社会を創る当事者として考える

こうした背景を踏まえ、高四小では、**目指す児童像を「自ら未来を切り拓き 心豊かでたくましい児童」とし、卒業を迎える時には、すべての子が自分の将来に明るい希望と勇気をもって巣立つことができるよう**教職員が一丸となって教育活動に取り組んでいきたいと考えています。

2. 目指す学校

＜信頼＞ 保護者から子を通してよかったと思われる高四小

信頼される学校は、教育効果が一層高まる。地域での子供の姿は、地域からの信頼にも広がります。

＜感動＞ 気付き、発見、できる喜びがあり、学び合える高四小

学び合いは、思考を深め、他者理解も深まります。

＜健康＞ 明るく、元気で、前向きに過ごすことができる高四小

体力の向上や環境に応じて自己を調整できる力は、生涯を通じて重要です。

3. 目指す児童

＜学校教育目標＞

「進んで学ぶ子」 「心豊かな子」 「たくましい子」「協働する子」

＜重点教育目標＞

- ・「心豊かな子」：思いやりの心ー相手意識と想像力の育成
- ・「たくましい子」：挑戦し続ける心自信と勇気を育み、安心して学び続けることができる 環境づくり

4. こんな人材を求めます

(1) 子供、保護者、地域の方から信頼される教職員

- ・ 教育公務員としての自覚をもち、サービスを遵守し、誠意と感謝をもって対応できる人材

(2) 教育への情熱、創意工夫と向上心をもつ教職員

- ・ 自ら学び、創意工夫を行いながら研鑽を積むことができる人材
- ・ 児童理解に務め、児童の変容や成長を価値付けし、児童・保護者と感動を共有できる人材
- ・ 前例にとらわれず、新しい発想で職務にあたることができる人材

(3) 組織の一員として学校運営に参画できる教職員

- ・ 周囲に対して、自らコミュニケーションをとり、チームワークを生み出すことができる人材
- ・ 職責に応じて課題発見に務め、課題解決の提言や改善を行うことができる人材

5. 人材育成上の重点とワークライフバランス

(1) 人材育成

日々の学校運営は、教職員一人一人の職務に対する責任ある態度が重要です。課題を先送りせず、組織の一員として主体的に行動できる人材を育成していく必要があります。

- ・ 副校長の指導監督のもとに、主幹教諭、指導教諭、主任教諭、各分掌主任がリーダーシップを発揮した組織運営とサービス事故の防止
- ・ 教員相互の授業参観や指導教諭授業参観、教師道場、研究発表会への参加
- ・ 特別支援教室や通級指導学級の教員と連携した校内員会を中心とした支援体制の運営と校内研修会の実施
- ・ 全教員や若手教員を対象にした校内研修の企画と OJT の実施

(2) ワークライフバランス

所属職員が心身ともに健康で働き続けることは、学校経営上きわめて重要なことです。働き方改革の視点を、学年・学級経営方針に位置付け、個人の意識改革と併せて実現していく必要があります。

- ・ SSS の有効的な活用を図り、業務量を削減する。
- ・ タブレット機能の校務活動の方策を検討し、積極的に試行することで、業務の効率化、簡素化を図る。
- ・ 電子データの共有や学年内の交換授業等、授業の効率化を積極的に導入する。
- ・ 学年を単位とした、定時退勤日の設定や出張時の帰校なし等、学年・個人での在校時間短縮を図る。